

**週末のひととき、
マンドリンアンサンブルの音色で
癒されてみませんか！！**

**マンドリンアンサンブル
フィンテラセマ+
コンサート**

場所 琵琶湖周航の歌資料館 1階
月日 11月10日(日)
時間 11時00分～11時30分
入場 無料
曲目 琵琶湖周航の歌、唐街雨情、飛驒朝霧、
じよんがら抄など

お問合せ先 enotax@gmail.com 担当 榎(えのき)

「マンドリン」って、皆さんご存知ですか??

マンドリンは日本人にもなじみの深い楽器です。その楽しくもはかなげな独特の音色は古くから多くの人を惹きつけてきました。比較的短期間で習得できるので愛好者も多い楽器ですが、本格的に取り組んでみると奥の深い楽器でもあります。

17世紀ごろイタリアで生まれたマンドリンは、ナポリを中心地として発展してきました。南イタリア由来のエキゾチックな、そしてセレナーデを奏でるロマンチックな楽器として広まり、18世紀にパリなどの大都市でも流行しましたが、19世紀末から20世紀初頭にかけて本格的なブームが訪れます。楽器が改良され、奏法も発展して、マンドリン音楽はかつてない高みへ到達します。この時代がマンドリンの歴史上最も重要な時期であるといえます。

日本において初めて紹介されてから100年以上ものあいだ、マンドリンの音色は多くの人々に愛されてきました。かつて詩人・萩原朔太郎をして「日本趣味」と言わしめたその音色は、後に古賀政男により昭和初期歌謡曲に取り入れられ、着実に日本の風土に根付きました。

現在、学生や社会人のマンドリン合奏グループは、日本全国いたるところで演奏されています。マンドリンの生まれ故郷イタリアや、マンドリンの盛んなドイツと比較しても、圧倒的な演奏人口を誇る日本は世界的な「マンドリン大国」です。

